

平成 29 年度 第 4 回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成 30 年 3 月 2 日（金）13 時 30 分から 15 時まで	
開催場所	多摩区役所 11 階 1101 会議室	
出席者の氏名	委員	有北いくこ（多摩区こども総合支援連携会議） 石井信子（多摩区民生委員児童委員協議会） 江口勇次（生田地区社会福祉協議会） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会） 和秀俊（田園調布学園大学講師） 川澄晶子（多摩区社会福祉協議会地域課）
	事務局	木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会） 白石大樹（自立支援協議会） 田村弘志（多摩区社会福祉協議会） 中村健（多摩区医師会） 初田温子（区民委員） 森本千恵美（区民委員） 山口正芳（区民委員） 吉田稔（多摩区商店街連合会）
		石本孝弘（区長） 齋藤俊啓（福祉事務所長） 鈴木宣子（地域支援担当課長） 曾我利江（地区支援担当係長） 池上洋未（同） 正木久美子（地域サポート担当係長） 伊藤昭義（地域振興課長） 石塚秀和（総務課長） 岩上雅博（企画課長） 田中仁志（危機管理担当課長） 山口孝子（高齢・障害課長） 川辺千織（衛生課長）
欠席委員（事務局）	青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 大津努（稲田地区社会福祉協議会） 菅野麻美（太陽の園地域包括支援センター） 古谷欣治（多摩区町会連合会）	竹田和也（保険年金課長） 津田淳（生田出張所地域振興担当係長） 菅原久雄（道路公園センター管理課長） 荒井康弘（道路公園センター協働推進担当課長） 根津牧子（保育所等地域連携課長補佐） 太山和枝（みまもり支援センター担当部長・地域ケア推進担当課長） 石垣秀之（地域ケア推進担当係長） 加藤秀隆（地域ケア推進担当） 今川明（同）
		田中勝彦（生涯学習支援課長） 小松英光（学校地域連携担当課長） 豊村和弘（区民課長） 久保田文夫（児童家庭課長） 増田素子（保護第 1 課長）

議 事	<p>(1) 平成 29 年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について</p> <p>① 菅・登戸・稲田地区の町内会・自治会・ヒアリングから展開した取組について</p> <p>② 中野島地区の取組について</p> <p>③ 生田地区の取組について</p> <p>④ 5 地区の地域づくりの進め方について</p> <p>(2) 多摩区こども・子育て実態調査 調査結果概要</p> <p>(3) 地域福祉計画について</p> <p>① 第 3 回会議からの修正点について</p> <p>② 区民説明会・パブリックコメントの実施結果について</p> <p>③ 第 5 期多摩区地域福祉計画概要版について</p> <p>(4) 地域福祉活動計画について</p>
傍聴人の数	0 名
配付資料	<p>会次第</p> <p>資料 1 座席表</p> <p>資料 2 名簿</p> <p>資料 3 多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱</p> <p>資料 4 平成 29 年度多摩区地域包括ケアシステムの取組について</p> <p>資料 5 多摩区こども・子育て実態調査 調査結果概要</p> <p>資料 6 第 3 回会議からの修正点について</p> <p>資料 7 区民説明会・パブリックコメントの報告について</p> <p>資料 8 第 5 期多摩区地域福祉計画概要版 (案)</p> <p>資料 9 第 5 期多摩区地域福祉計画表紙 (案)</p> <p>資料 10 第 5 期多摩区地域福祉計画資料編 (案)</p> <p>資料 11 多摩区社会福祉協議会 第 4 期地域福祉活動計画概要版 (案)</p> <p>○第 5 期多摩区地域福祉計画素案 (冊子)</p>

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (太山部長)	第4回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶。 会議録のための録音設置、傍聴者等の説明、資料確認。
石本区長	区長より挨拶。
事務局 (太山部長)	続いて、座長選出を行う。前回の会議に引き続き、和委員にお願いしたいと思うが、いかがか。 (一同承認) それでは、この後の議事の進行は和委員にお願いしたい。よろしく願います。
和座長	それでは、次第に従って議事を進行する。 議事(1)平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について、事務局より説明をお願いします。
事務局 (今川)	議事(1)平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について 資料4 平成29年度多摩区地域包括ケアシステムの取組についてに基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。他に何かご質問はあるか。
田村委員	今年の9月で3年経つが、子どもから大人までお互いに知り合うあいさつ運動についてである。例えば学校の中でお互いに挨拶ができて、大人に声をかけられて対応することがよいのかどうかという議論をされている中で、かなり難しい問題があると考えている。しかし、学校も参加し生徒も参加するあいさつ運動が一番効果のある取組であると思っている。学校の外に出たときは、挨拶をしているのかと心配することはある。すぐには達成できないが、これから頑張ってやっていきたい。子どもたちが安心して生活できるように、例えばお子さんと手をつないでいるお母さんが挨拶がされ、ほっとしたという話もあり、あいさつ運動によって更に交流が深まってくるのではないかと考えている。
和座長	ありがとうございます。終了する中野島プロジェクトはどのように継続していくのか。
田村委員	中野島つながり愛フォーラムが先月24日に行われ、始めは20名集まらないのではと考えていたが、多くの方が興味を持って参加した。今後どのようにつなげていくかということで、一番の課題は研究所が手を引いてしまうことである。しかし、現時点での研究所が相談相手になり、更に地域での活動を進めて行けるのではないかと考えている。まだこれから残っている9月までの間に、方向付けをしたいと考えている。
和座長	他に何かご質問はあるか。
山口委員	少しお尋ねしたいが、ケアシステムを推進していこうと2年前からやっていて、先ほど生田地区の報告があった。町会を中心にこれからしていこ

発言者	発言要旨
	うというお話であるが、生田の例で見ると、63 町会があるのに出てきている町会が 22 ということは、3 分の 2 の町会は関係ないということか。出てくる出てこないは別として、このシステムを知らしめる必要がある。「こんなことだ」というのをまだ分かっていないということがあるのではないか。この辺のことは今後進めていかなければいけないと思う。
事務局 (石垣係長)	<p>生田地区のご指摘については、もっともなことだと思っており、現在検討を進めるところである。ただ、3 分の 1 以外の比較的積極性があまり見られない町会・自治会については、こちらから区役所として介入する方法について少し慎重にしていく必要がある。「区役所が来たから、私たちはやっていないのだ」といった取られ方をするのが一番困るので慎重に進める。生田地区全体で 7 万人規模の地域になるので、まずは今年度は力のある所がどのような活動をしているのかという把握をしながら、さらにその中で支え合いを進めていくために、他との連携等を見据えたワークショップを開催したところである。</p> <p>来年度以降については、まだどうやっていくかという詳細までは決まっていないが、おっしゃったとおり、活動が外に見える町会・見えない町会があるので、そこを少し交ぜた形でやりたい。ただ、7 万人規模を一度に進めるわけにはいかないなので、生田地区の中をさらに細分化して、そのうちの 1 地域に関して町会の活動の度合いを混ぜながら、やっている活動をその地域全体に広めていく方法を何かしたらいいのではないかと今内部で考えている次第である。</p>
和座長	ありがとうございます。山口委員、よろしいか。
山口委員	はい。
和座長	<p>今後の課題の所にも生田地区のことが書いてあるし、ぜひ今説明があったように、丁寧にじっくり進める必要があるかと思われる。</p> <p>それでは、議題（2）多摩区こども・子育て実態調査調査結果について事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局 (石垣係長)	議事（2）多摩区こども・子育て実態調査調査結果概要について、資料 5 多摩区こども・子育て実態調査 調査結果概要に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。とても面白い結果が出ていたデータであるが、何かご質問やご意見があればよろしくお願ひしたい。
有北委員	アンケートはひとり親世帯に対してはやはり 200 ぐらい送ったのか、それとももっと少ない件数を依頼したのか。
事務局 (石垣係長)	先ほどの説明から推測していただくと、0 歳から 5 歳までが 6 段階あって 200 サンプルなので、そこで 1, 200。1, 370 なので、おおむね 200 というところである。
有北委員	ひとり親で 200 ぐらい。回収率はひとり親世帯はどのぐらいか。

発言者	発言要旨
事務局 (石垣係長)	3割である。
有北委員	ありがとうございます。
和座長	<p>他にいかがか。最後のデータはとても面白いと思った。皆さまがいろいろな地域活動をなさっている中で、子育て世代の親を支えなければいけないと思って、われわれもそうだが、活動していたような気がするが、実は助けたいというニーズがあるようだ。先ほど説明でもあったように、助け合ったり助けたりというのが、このデータからも見えてきたかと思うが、皆さま方の感想の中でもししたら、このような形でできる話で具体的なものを考えられた委員はいらっしゃらないか。いかがか。</p>
田村委員	<p>中野島地区のほっこりカフェにかわいい赤ちゃん、アイドルがいらっしゃるが、積極的に参加して、特にお年寄りが本当によろこんでいる。それから地域で開催しているカフェにも赤ちゃんを連れてきて、まだ3歳児も一緒に来ているが、本当に人気の的になっている。アンケートの結果見ると、「本当に積極的に意識して参加してくれているのだな」ということがうなずけた。</p>
和座長	<p>田村委員、ありがとうございます。私も実はこの近くのフレンチのレストランでそのシェフとごちゃ混ぜのサロンを食事をしながらやっている。そこに子育て世代の方がいらっしゃって、アンケートの結果11ページの上のスライドにあるように、子連れで行けるお店がなかったり、相談できる場所などがなかったので「すごく良かったです」といった声をいただいた。いろいろな所でいろいろな活動をやっていくのが地域包括ケアシステムにつながるのだなと私も実践した。このようにデータで出てくると、とても納得するというか、説得力があつてよいと思う。</p> <p>おそらく皆さま方の活動でもこういうデータをうまくご活用いただいて仲間を増やすというか、外へ発信していくのもよいかと思えるとてもいいデータかと思う。他にいかがか。</p>
和座長	<p>ありがとうございます。今日は第4回目の会議だが、第1回と第2回でいろいろ多摩区の活動一覧を見せていただいて、子育て分野はとても多いが、障害分野はそれほど多くないと感じた。多摩区役所の1階で行っている「パサージュ・たま」については、区役所でこういう活動を行っているのはなかなか珍しいと思う。先ほどのコラムの一覧で事業の説明のところに「パサージュ・たま」があったが、これも提案であるが、例えばコラムのところでも多摩区の障害分野の活動の一つとして取り上げる等、もう少し障害分野があつてもよいという感想である。</p>
初田委員	<p>このデータはとても興味深く見せていただいた。昨年北欧に行かせていただいて北欧の福祉等を見させていただく機会があった。その時に、今の日本でそれを用いるという話ではないが、比較的勤務時間が短いために家</p>

発言者	発言要旨
	<p>族と過ごせる時間が本当に多いというところを1つすごく感心した。あと子どもを育てるというところが、本当に1人の子どもを大事にしていく。子どもにとって何が大事なのかというところを一番の基本にして物事を国自体が考えていくところがとても参考になった。</p> <p>日本も今働き方改革が進められている。それで今スライドの中で「父親の勤務時間と子どもと接する時間」というのがここにある。一番多いのが8時間から9時間となっているが、これは今の実態か。私はその辺のところ分からない。私が勤務していた当時は、残業などによりもっと長かったような気がするのだが、今はこんな時間だろうか。もしくは、もう少し少ないのだろうか。</p>
<p>事務局 (石垣係長)</p>	<p>アンケートなので、皆さんの実感として働いている時間ということで回答していただいていると思う。ただ、それに日本の場合は長距離通勤とかいろいろな問題もあるので、実際に子どもと接する時間はなかなか勤務時間とは直接的なリンクはないかもしれないが、一応法律上は労働基準法は8時間以内ということにはなっている。それ以上働いているということはやはり基準外の時間にも働かざるを得ないような状況は皆さん結構お持ちなのだというのは見て取れるかと思う。</p>
<p>初田委員</p>	<p>ありがとうございます。働き方改革を本当にもっと進めてほしいというのが私自身の実感である。もっと家族が楽しく生活できる、そういう日本になってほしいということを強く感じた。それと、子育て世代の現状で孤独感を感じるというところだが、生活に対して孤独感を感じているということだろうか。そこがもう少し分かるといいかと思う。</p>
<p>事務局 (石垣係長)</p>	<p>言葉の定義自体は、アンケート自体では細かく定義はしていない。だから、アンケートの回答者が実際に感じることで回答していただけたことなので、その辺を差し引いて考えていただきたい。昨日も和先生から指摘を受けたばかりで、昨日は実は孤立感とここを書いていた。孤立と孤独は言葉の定義が違うという話があったので、座長に振るのも申し訳ないのだが。</p>
<p>和座長</p>	<p>孤立は、状態である。要は、ぼつんと孤立している状態。孤独感という感情は、周りに親子は子どもがいたり、おじいちゃん・おばあちゃんがいたり、2世代、3世代、また近くに身近な友人や近所の人がいっても孤独という感情を持つのが孤独感。だから、孤立感という言葉は実は学術的には正しくないという話を昨日少ししたかと思う。状態と感情ということだろうか。</p>
<p>初田委員</p>	<p>ありがとうございました。どんな社会になっても、孤独感人間が持っていて、どこかにあるかと思うが、特に子育てで孤独感を感じている。最初にご説明いただいた各町会を中心とした取り組みが「今まで以上にものすごく活発になっているな」ということが、とても私にとっては力強く感じるところで、これを継続して進めていけるようなものを何か本当に考え</p>

発言者	発言要旨
	<p>ていければと思ったところである。</p> <p>もう1つ、今の若者はものすごく親切な人が多いと感じている。何が違うのかはよく分からないが、ある意味価値観が多様化してきていて、ご自分の生きたいスタイルで生きている人も多くなっているのではないかと感じる。そのようなことはこれからの日本にとってもいい国をつくっていきけるような感じがして、希望を持っているところである。以上、まとまらないが、今の思いをお伝えした。</p>
森本委員	<p>今の資料の6ページになるが、子育て世代の現状で孤独感は今お話があったとおり、ここに少し虐待していると感じる状況を別に入れて書いた。子どもの虐待はどこの世の中でも大変重大な問題だと思っている。孤独感からと次ページの不安感といったところから子どもの虐待は多摩区の場合は発生しているのか、どういったところが一番大きなポイントを占めているのか、総体的に教えてもらいたい。</p>
事務局 (太山部長)	<p>子育て世代の孤独感が4人に1人というデータが、前回調査の時も出て非常にショックだったというか、驚きを感じた。今回も大差はないが、微増ではあるが、数値的には上がっているということで、私共も残念だと思っている。確かに孤独感を感じている人ほど、自分が子どもを虐待しているのではないかと、時々虐待していると意識してしまう人が、孤独感を感じていない人よりはパーセンテージ的に上がっている。</p> <p>実際孤立した中で子育てをしていくと、何か困ったときに身近に相談できる人がいない環境の中での子育ては、親にとっては不安が非常に強くなったり、思うようにいかない子育てにいら立ってしまったりという状況がたくさん見られている。みまもり支援センターには、子どもがかわいくないからということで泣きながら相談が来たり、「子どもを虐待しているんだけど」と言いながら電話がかかってくると、うちの専門職は日々飛び回っている状況である。</p> <p>実際に児童相談所や保健福祉センターに、そういう虐待の通告や相談の数は年々上がっているのが実情である。今警察のほうでも夫婦間のけんかを子どもの目の前でやると児童虐待ということで通告を上げなければいけないとなっているので、数的に大きく増えているのはその部分である。しかし、実際に親たちの不安感や育児相談の中で聞く話において、増えてきているのは日々感じている。</p> <p>このデータにもあるように、孤独感を和らげるためには何が必要かということでは、少しだけでもいいから「自分1人の時間になれるために子どもが預けられるといいな」とか、大変な思いをしていて「家事や育児のサポートが受けられたら」というところが要望としては非常に高く出ている。しかし、一時保育とか一時預かりとか家事・育児のサポートは施策としてもやっているが、やはり需要に対して供給が追い付かない現状がある。</p> <p>そういう意味からでも、サービスの利用という形ではなく、本当に暮ら</p>

発言者	発言要旨
	<p>しをしている身近なところで「この人なら SOS を伝えられるわ。助けてもらえそう」という方がそばにいて、常時何かのときに頼りになる方が身近にいるのといないのでは子育ての孤独感や育児負担、不安感は大きく違ってくるのではないかと思う。これは何も子育て世代だけの話ではなく、これから高齢者のみの世帯は増えてくると思うが、どんな世帯に関しても同じことが言えるのではないかと思う。本当にお互いさまと言い合える関係の中で持ちつ持たれつという、昔の地域の支え合いがこれからますます必要になってくるかと思われている。</p> <p>今回地域包括ケアシステムという視点から若い世代の方たちに、最後に、自分が今子育て中である私が「何か頼まれたらできますか」と聞いたときに、「私たちは本当に今子育てでいっぱいだから、できない」という回答が多いかと思ったが、半分の方が「話し相手なら」とか「ちょっとした買い物ならやってもいいよ」と答えてくれていることに非常にうれしく思った。</p> <p>高齢者もそうだが、地域の中でいつも支援される側とかいうことではなく、支援されたり今日はしたりというお互いさまの関係が身近でできて、そこからつながって日頃のつながり・支え合いができる、そういう地域でありたいという願いも込めて、この後の地域福祉計画の多摩区の理念としては「多様な主体と多世代がつながり、支え合えるまちを」ということで目指している。そういう意味でも今回の子育ての世代からの実態調査はぜひ皆さんにはお伝えしたいと思う。かなりお時間はかかったが、今日の1つのテーマとして挙げさせてもらった。回答になっているだろうか。</p>
森本委員	ありがとうございます。
有北委員	<p>すみません。読み取りのところで、あまりにもプリントされたものが小さかったので私もよく見えなかった。先ほどおっしゃった父親の勤務時間の所をよく見ると、下の所には全体では8時間から9時間が多いと書いてあるが、本当は9時間以上のほうが圧倒的に多い。こういうのは数字の読み取り方を正確にしていかないと、あまりグラフとしてきちんと見ないので、文字で大きく書かれた部分が結論と思って、そこしか見ない。読み取り方をもう少しきちんとされたほうがよいかと思った。</p> <p>それから、太山部長がおっしゃっていたのは、リフレッシュのところだが、私も子育て支援の活動を25年やっているが、やっと親のリフレッシュがこれだけの数字で出てきたのはすごく感慨深い。今まで母親がリフレッシュしたいというと、「何で子どもを放ったらかして親が遊ぶんだ」といった無言の圧力がいっぱいあって、母親は言えなかった。でも、ここでやっとこういうふうに声が上げられた。「自分がリフレッシュしないと、子育ては煮詰まって虐待になっちゃうんだよ」と母親が言えたことが、私はこのデータではとても良かったと思う。</p> <p>私たちもそのために一時預かりとか定期預かりとかいろいろなサービスを今増やしているが、やはり問い合わせはとても多い。「気兼ねなく親がど</p>

発言者	発言要旨
	<p>んな理由でも預けてもいいんだよ」ということを預かるほうも言ってあげないと、「特別な理由でなければ預かりません」といったのでは親はリフレッシュできない。特に母親は後ろめたい思いをしてしまう。</p> <p>それから、11 ページの「地域の人にちょっと頼まれた場合、私にもできると思うことはありますか」の部分であるが、ここで少し気になったのは、「地域の人」というのはこのアンケートの中でどういう人を指して設問を作られているのだろうか。「地域の人」をお母さんたちに聞くと、高齢者も対象として考えているのか、あるいは自分たちと同世代の子育ての仲間を対象として考えているのかによって回答が違ってくると思う。もちろん地域のサロンに参加されている親子などは多世代交流の楽しさを味わっていらっしゃると思う。そういうのとは別に「話し相手」「ちょっとした買い物」「子育ての相談」とあるが、「子育ての相談」は、明らかに自分たちと同じ世代に向けての話である。「ちょっとした買い物」や「話し相手」は、対象は誰なのかというところがもう少し明確に見えてこない、本当にこちらの望ましい結論で読み取ってしまうのは少し違うかという気がした。お母さんたちは、自分たちの仲間同士の助け合いしか、もしかしたら考えていないかもしれないということもあり得る。だから、その辺りを設問との関係でもう少しきちんと分析していただければと思う。よろしく願いしたい。</p>
和座長	かなりいろいろなご意見と質問で白熱した。
田村委員	<p>最近の新聞に載ったコラムをまた短くしたもので理解できるかどうか分からないが、孤独ということについて載っていた。英国は人口が 6,500 万人だという。その中の 900 万人が孤独を感じている。対策として孤独対策大臣をつくったという記事であるが、三木清は『人生論ノート』に「孤独は山になく、街にある。一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の「間」にあるのである」と書いている。それで結論というか、孤独にどのように私たちは取り組んでいけるかという解決として、「挨拶し、困っているようだったら声を掛ける。それだけで少し和らぐものかもしれない。気付いた時に少しずつみんなが誰かの孤独担当になればいいのではないか」というようなことを書いてあった。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。いろいろなご意見が出たので、大切なデータでなので、先ほど有北委員からもご指摘があったように、丁寧にしっかり使って、今後の取り組み施策にしていけたらと思う。</p> <p>それでは、議事（3）地域福祉計画について事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局 (加藤)	<p>議事（3）地域福祉計画について、</p> <p>資料6 第3回会議からの修正点について</p> <p>資料7 区民説明会・パブリックコメントの報告について</p> <p>資料8 第5期多摩区地域福祉計画概要版（案）</p> <p>資料9 第5期多摩区地域福祉計画表紙（案）</p>

発言者	発言要旨
	資料10 第5期多摩区地域福祉計画資料編(案)に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。今の議事に対し、何か質問や意見はあるか。それでは、議事(4)地域福祉活動計画について事務局より説明をお願いしたい。
川澄委員	議事(4)地域福祉活動計画について、資料11 多摩区社会福祉協議会 第4期地域福祉活動計画概要版(案)に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。この件について何かご質問やご意見はあるか。とてもカラフルで見やすい概要版である。先ほど行政計画と地域福祉計画とこの社協の活動計画の位置付けというか、つながりについて少し説明があったような気がするが、その点をもう少しお示しいただくと委員の皆さま方のご理解ができるかと思うが、いかがか。
事務局 (石垣係長)	<p>社協の地域福祉活動計画との関係性については、第1回目の会議でもご説明させていただいたとおり、社会福祉協議会と川崎市としては、今後連携を深めていく必要があるということで、今年度の計画改定から、できる区から連携をしていくようにということがあった。多摩区については、地域包括ケアシステム推進ビジョンの関係で、地域福祉計画自体がまず川崎市全体で1年延びたのに合わせて、多摩区社会福祉協議会の計画については逆にわざわざ1年短くしてもらって、この計画のプロセスに合わせていただいた経過がある。また、内容についても、全ての会議に委員として出席いただき、ご報告を適宜いただくというプロセスを重視している。</p> <p>先ほど理念や基本目標といったものも、当初は社協の基本目標も3つだったが、内部で社協の事業との関係性から3つより現在の2つのほうがいだろうというような独自の展開を遂げ、現在、プロセスを連携した作成ということで両方の計画が今度できるという状況になっている。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。今説明があつて、プロセスを共に歩いていく中で両計画のつながりというか、位置付けがなされたという理解でよろしいか。ありがとうございます。</p> <p>他にいかがか。よろしいか。</p> <p>それでは、以上をもって議事は終了する。それでは、進行を事務局にお渡しする。</p>
事務局 (太山部長)	<p>和座長、議事の進行をありがとうございました。皆さまもご協力ありがとうございました。</p> <p>それでは、閉会に当たり、齋藤福祉事務所長からご挨拶を申し上げます。</p>
齋藤福祉事務所 所長	閉会の挨拶。
事務局 (太山部長)	<p>これにて第4回多摩区支え合いのまちづくり推進会議を閉会する。ご協力ありがとうございました。</p> <p>閉会</p>

以上